

有限会社 八雲フィードデザイン

■ TMR センターから、道南最大の酪農協業法人に発展



〈法人の概要〉

所在地: 〒049-2672 八雲町野田生 396 番地 1

代表者: 代表取締役 倉地茂

構成員: 5 名 (構成農家 5 戸)

役員: 5 名 常時雇用者: 9 名

設立: 平成 22 年 4 月 資本金: 300 万円

事業内容: 酪農

牧草 110ha、デントコーン 70ha、馬鈴しょ 2.5ha、乳用
経産牛 550 頭、乳用育成牛 120 頭、年間生乳生産
量 3,800t(H22 年)

経営面積: 182.5ha

売上高: 4 億 2,967 万円(H22 年)

電話: 0137-66-2003 FAX: 0137-66-2003

〈法人のあゆみ〉

- 平成 17 年 TMR センター有限会社八雲フィードデザインを設立 (構成農家 6 戸)
経営の協業化に向けて検討
- 21 年 施設整備に着工 (22 年 3 月完成)
- 22 年 搾乳部門を法人化して、TMR センターが協業法人としてスタート
同年 7 月に日生産量 1 万kg (受託乳量ベース) を達成

〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・八雲町の野田生地区は、酪農と耕種が混在する地域性から交換分合が進まず、また、酪農の規模拡大とともに飛び地が増加するなど作業効率が悪化し、その影響により家族労働の負担が大きいことが課題であった。この労働過重な生産体系から脱却するため、TMR センターの必要性を感じていた。
- ・このため、地区の酪農家 3 戸で TMR センターの設立を目指して検討を始めた。その後、他の酪農家に声をかけたところ、最終的に 6 戸が参加の意志を示し、話し合いを重ねていった。平成 17 年に道南地域では初めての TMR センターである有限会社八雲フィードデザインを設立。当初は構成員による収穫作業からスタートした。
- ・構成農家は 1 戸を除いて 5 戸が 30 頭規模の小規模経営であったため、TMR センター操業時から経営の協業化についても協議を重ね、収支計画や合意形成などの課題解決に取り組んできた。TMR センターの実績があったので、比較的短期間で合意形成が図られ、コスト削減と将来の酪農経営の維持のために経営の協業化による大規模経営に踏み切ることにした。
- ・平成 21 年 1 月、施設整備に着工、翌年の 3 月には完成した。同年 4 月には、搾乳・飼養管理労働の充実による生乳生産拡大を目指し、搾乳部門の法人化を行った。フリーストール牛舎 2 棟 (総面積 6,466 m²)、633 頭を収容できる道南最大規模の大型酪農施設で搾乳を開始した。搾乳部門の法人化を契機に、収穫作業をコントラクター (株式会社八雲コントラ) に委託している。
- ・TMR センターは道内に 30 組織以上設立されているが、TMR センターが複数戸法人として稼働するのは、八雲フィードデザインが全道で初めてである。
- ・大規模経営を開始し、22 年 7 月には、日生産量 1 万kg (受託乳量ベース) を達成し、道南でトップとなった。

〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・一番の現実的な課題は初期投資にあった。施設整備は公社営事業で進めたが、事業申請に当たっては農協と計画策定や申請作業について綿密に連携をとった。
- ・主な相談相手は新函館農協で、生産計画や資金計画について相談した。
- ・労務や報酬面での取り決めについて、経営実情を反映させていない部分が多く、現在再検討している。

〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・経営の集約化によって濃密で効率的な牛舎管理の実現と交代での休みが増えた。女性は週1回、男性は10日1回休日を取っている。
- ・搾乳部門は組織化したばかりなので法人化のメリットはまだ数値で表せ切れない。
- ・飼料の余剰在庫が少なくなり、コスト削減が拡大した。
- ・営農面で個人の自由裁量が制約される。

〈法人が継続するためのポイント〉

- ・経営課題や牛の状態、作業計画などの情報共有を構成員間で定期的に行い、経営に関する視点を揃えていくこと(合意形成)が、複数戸では重要だと実感している。

〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・複数戸法人を目指す場合には、構成員の合意形成が第1で、良く話し合うことが大切です。
- ・会社の規約や職員の処遇、待遇ばかりではなく、会社の生産目標や職員の所得目標を掲げて、その達成に向けた具体的な根拠を数字で示すことが必要です。

〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・TMRセンターの機能を備えた、完全協業型の酪農経営の実践している。
- ・構成員の情報共有を図るために定期的な検討会の開催と、経営や技術に関しての外部から積極的に助言・指導を受けている。
- ・地域の離農農家の跡地を引き受けている。

〈経営目標と将来の展望〉

- ・経産牛580頭、育成牛120頭を計画目標としており、稼働1年目でほぼ目標域に到達。今後は更なる増頭ではなく、スケールメリットを活かして収益を拡大できるように、乳質や乳量の向上を目指した飼育管理を進めていく。育成牛については、徐々に減らしていく予定。
- ・年間出荷乳量は5,300t(9,200kg/頭)を目標にしている。

〈視察等の受入〉

詳細については要相談。

連絡先: 0137-66-2003 (担当:代表取締役 倉地茂)